

REACH対応における現状と課題 (JIG-101におけるREACH対応について)

2010.11.17:
eBASE カンファレンス(東京)にて



グリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)

内容:

1. JIG-101におけるREACH対応の範囲と条件
2. REACHスクリーニング方法とSVHCリスト
3. JGPSSIのVer4.10ツールでの回答方法
4. JIG-101の改訂プロセス
5. JIG-101のREACH対応における課題

1. JIG-101におけるREACH対応の範囲と条件

- 調査対象である回答者の供給製品(製品)は、REACHで言うところの(アーティクル)と同義とする
- 閾値レベルは製品(調査単位)の0.1重量%(1,000ppm)とする
- 適用する要件はREACHの33条および7条2項とする
- 電気電子製品に含有すると考えられる物質のみをスクリーニングし、物質リスト(表A)に加える
- 現状のスクリーニングの対象は、公開済みの認可対象候補リストおよびROI、コンサルのSVHCとする

2-1. REACHスクリーニング方法

SVHCを、電気電子業界の製品に含有する可能性のある物質に絞り込む方法（最新のJIG-101 Ed 3.1 別表Fにも掲載）

■ 三つの加点基準

1. CAS番号、EC番号又はインデックス番号で特定可（1点）
2. その物質が製品中に残留し得る（1点）
3. 電気電子業界の製品への用途情報あり（各1点）

■ 選別基準（スクリーニング）

- * 合計3点以上のSVHCを選別（JGPSSIが案を提供）
- * 選別結果を3団体内の関係者で精査し決定
- * 欧州のBOMCheckの意見も考慮

■ 用途情報は各国の関連公開データベースより入手

2-2. スクリーニング結果 (JIG-101 Ed 2.0~Ed 3.1)

No.	物質名	CAS番号	CAS, EC又はIndex番号	製品中に残留	電気電子製品への用途(染料・顔料、表面仕上げ、界面活性剤、プラスチックなどの各種添加剤など)	合計点
1	フタル酸ジブチルDBP	84-74-2	1	1	6 (染料・顔料、インク、界面活性剤、可塑剤など)	8
2	五酸化ニヒ素	130328-2	1	1	5 (染料・顔料、界面活性剤、防腐剤、添加剤など)	7
3	三酸化ニヒ素	1327-53-3	1	1	6 (染料・顔料、インク、防腐剤、添加剤など)	8
4	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)DEHP	117-81-7	1	1	4 (染料・顔料、インク、防腐剤、可塑剤など)	6
5	ヘキサブロモシクロデカン(HBCDD)	25637-99-4, 3194-55-6	1	1	1 (難燃剤)	3
6	短鎖型塩化パラフィン(C10-C13)	85535-84-8	1	1	3 (界面活性剤、難燃剤、可塑剤)	5
7	トロブチルスズ=オキシド(TBTO)	56-35-9	1	1	3 (染料・顔料、防腐剤、他の添加剤)	5
8	フタル酸ブチルベンジルBBP					6
9	リン酸トリス(2-クロロエチル)TCEP					4
10	塩化コバルト(CoCl2)					3
11	クロム酸鉛(II)	7758-97-6	1	1	1 (染料・顔料)	3
12	硫酸モリブデン酸クロム酸鉛	12656-85-8	1	1	1 (染料・顔料)	3
13	ピグメントイエロー 34	1344-37-2	1	1	1 (染料・顔料)	3
14	フタル酸ジイソブチル(DIBP)	84-69-5	1	1	1 (可塑剤)	3
15	アルミノ珪酸塩,耐火セラミック繊維	-	1	1	1 (繊維/ファイバーの添加剤および又はファイバー)	3
16	ジルコニアアルミノ珪酸塩,耐火セラミック繊維	-	1	1	1 (繊維/ファイバーの添加剤および又はファイバー)	3
17	ホウ酸	10043-35-3, 11113-50-1	1	1	2 (防腐剤、その他)	4
18	四ホウ酸二ナトリウム無水物	1303-96-4, 1330-43-4, 12179-04-3	1	1	2 (防腐剤、その他)	4
19	七酸化二ナトリウム四ホウ素水和物 ホウ酸二ナトリウム水和物) (四	12267-73-1	1	1	2 (防腐剤、その他)	4

候補リストの38物質中の19物質をスクリーニングし、
物質リスト(表A)に反映済み

3. Ver.4.10ツールによるSVHCの回答方法

<第二階層画面のイメージ>

分類 No.	物質群	含有判定 (Y/N)	総含有量	コード	使用用途分類	
J01	特定の REACH規則 認可対象候補物質 (SVHC) -	Y		J01-J-0	調査単位あたり0.1%を超える...	ボタン
				J01-J-98	調査単位あたり0.1%を超える...	ボタン
A05	カドミウム/カドミウム化合物					
A07	六価クロム化合物					
A09	鉛/鉛化合物					
⋮	⋮					

第二階層には個々のSVHCは表示しない

SVHCの詳細情報は仮想の物質群であるJ01のボタンにより、第三階層に移り入力する

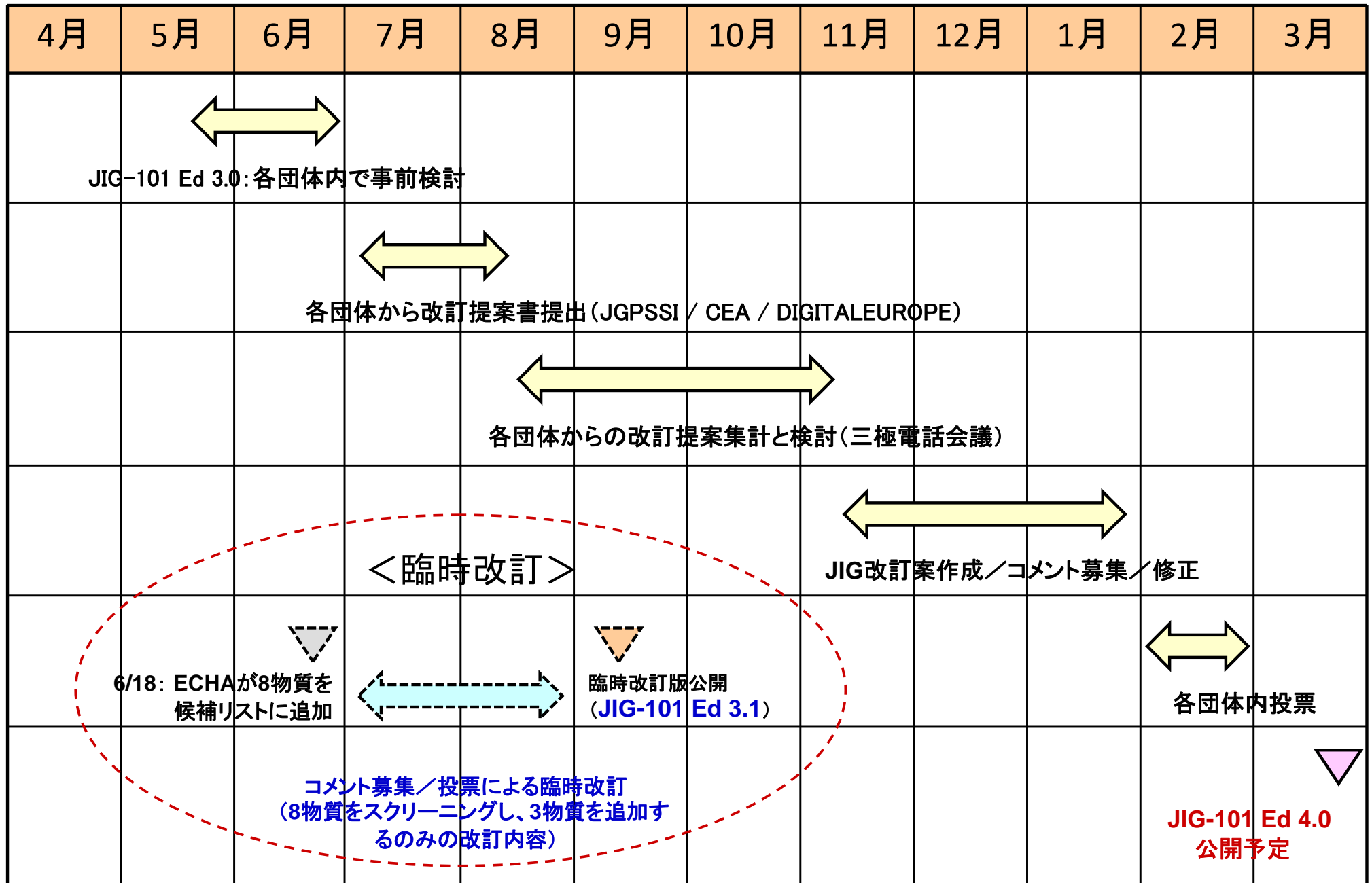
<第三階層画面のイメージ>

CAS番号	物質名	含有量	使用用途・目的...
56-35-9	トリブチルスズ=オキシド (TBTO)		
1303-28-2	五酸化二ヒ素		
1327-53-3	三酸化二ヒ素		
25637-99-4	ヘキサブロモシクロドデカン (HBCDD)		
3194-55-6	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン		
⋮	⋮		

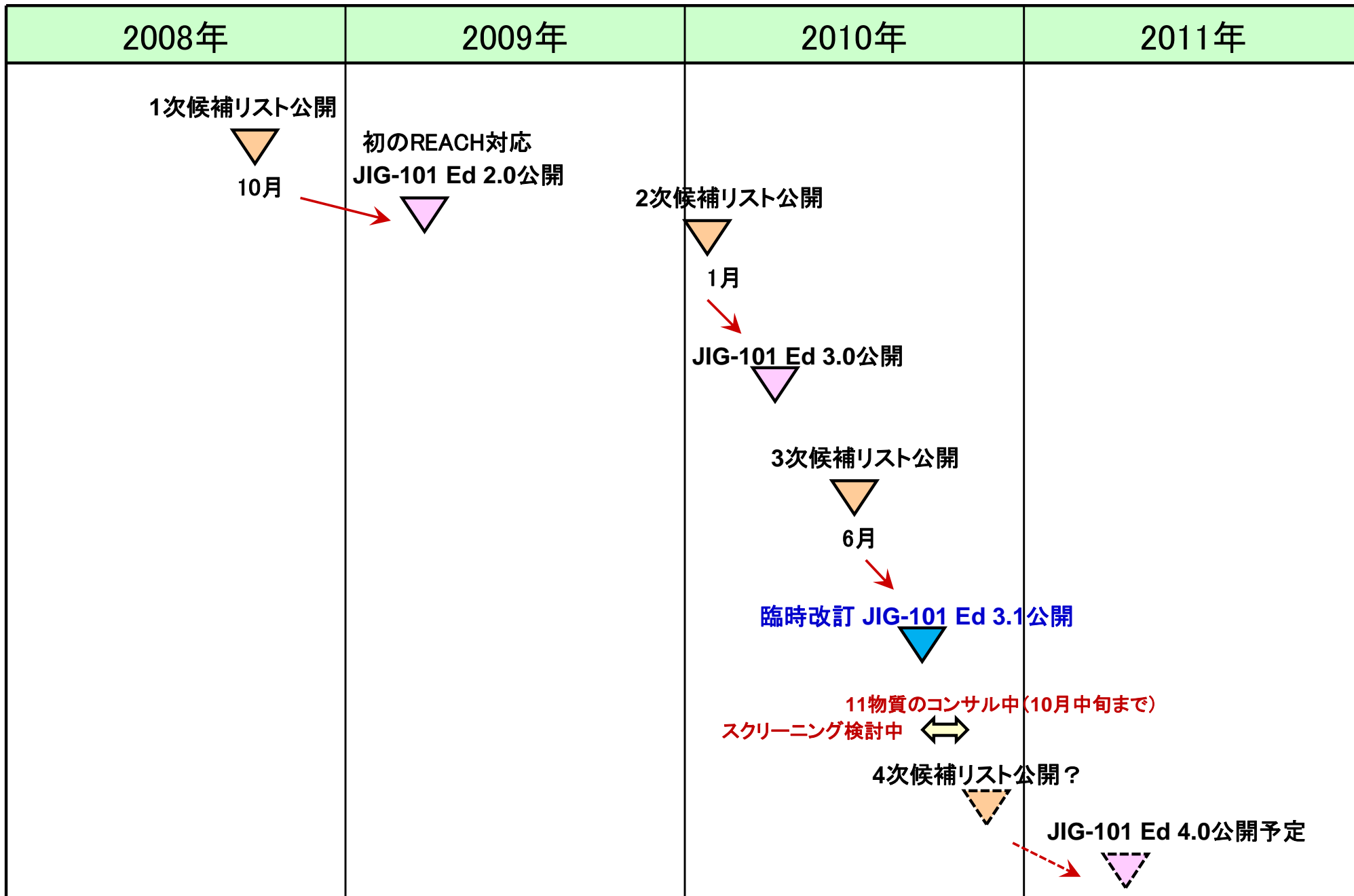
CAS番号をキーとした回答

個々のSVHCはCAS番号単位で、全て第三階層に表示

4-1. JIG-101の年次改訂プロセス(2010年～2011年の例)



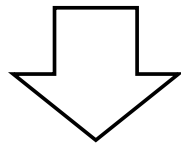
4-2. 候補リストの公開とJIG-101の改訂(年次と臨時)



5-1. JIG-101のREACH対応における課題

- 認可対象候補リストが公開(年2回?)されるたびに、JIG-101の改訂作業が発生する

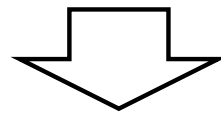
(現状は年次改訂および臨時改訂で対応)



- ただし調査回答ツールの改訂はJIG-101の年次改訂に対応し、年1回とする事を基本方針とし、頻繁なツール改訂は避ける(途中の追加物質調査は各社対応)
- 年1回のツール改訂としても、結果、川下企業からサプライヤへの追加調査が必要になる

5-2. 追加調査を回避する方法(ラージリスト)

- 将来、認可対象候補リストに載るであろう全SVHCを、予めスクリーニングしてJIGの物質リストに含める方法であり、この物質リストを「ラージリスト」と呼んでいる
- このスクリーニングの対象は約1,200物質とした
(REACH57条のCMR-1 ,CMR-2, PBT, vPvB など)
- 約1,200物質にスクリーニング方法を適用し、約240物質を抽出(2008年に案としてJGPSSIが作成)したが、JIG-101Ed 2.0では見送った



2008年6月の三極会議の状況

- 今後も、スクリーニングの精度・信頼性の向上が必要であり、次期年次改訂(JIG-101 Ed 4.0)でも、ラージリストの採用は時期尚早との判断により継続検討としている

ご静聴ありがとうございました。



グリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)事務局担当： 田島 厚
(社)電子情報技術産業協会(JEITA) 環境部